初雁中だより

第　２　号

令和５年５月１日（月）

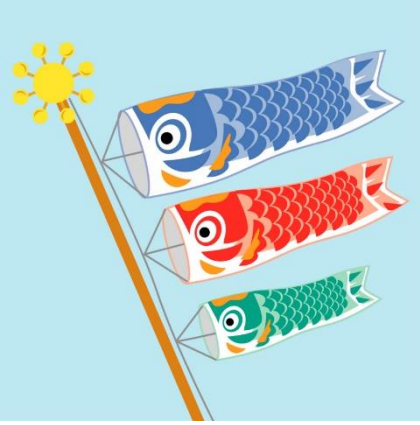
学校教育目標	初雁中の目指す姿
学びあい	◇目指す学校像　　なりたい自分にする学校
豊かな心で	◇目指す生徒像　　なりたい自分になる生徒
未来をひらく生徒	◇目指す教職員像　「なりたい」を教え導く教職員

ふるさと教育の推進

校長　矢部智史

新緑の美しさが際立つ季節となりました。少し前まではハナミズキが春の装いを彩り、見る人の心に元気を与えてくれましたが、季節の移ろいはゆっくりと、しかし確実に進んでいきます。自分自身の成長もこうあってほしいと思うのですが、人の成長、なかなかそうは行きません。

さて、昨年度、川越市は市制施行１００周年という大きな節目を迎え、様々なイベントが行われました。また、市内小中学校においては　「ふるさと教育」が推進され、地域の歴史や文化の担い手として、郷土に愛情と誇りを持つ子供たちを育成しようという機運が高まりました。初雁中において、総合的な学習の時間で長年取り組んでいる「川越観光サポート」もふるさと学習を進める上で、重要な活動の１つだと思います。その活動を通して、「地域愛」と呼べる感情が湧き起こったり、地域の魅力を再発見したりする生徒も多いのではないかと思います。



ところで、みなさんには「故郷」と呼べる地域がありますか？私は、川越市西小仙波に生まれ、４歳の時に今住んでいる川島町へ引っ越しました。私の大部分を形作っているのは「川島町」ですので、出身は？と聞かれると見栄を張って「川越です！」と答えていた時期も正直ありましたが、内心では「川島町」と思っています。そんな私ですが、川島町には人並ならぬ郷土愛を持っていると自負しております。

３年ほど前、犬を連れてほとんど人の通らない自宅から少し離れた未舗装の田舎道を歩いていました。輪立ちの部分だけ草が生えておらず、道の中央と道の両脇にだけ草が生い茂っていました。道の中央部の草むらに、大きなどんぐりがたくさん落ちていたので、子供の頃はよく拾っていたなと思い、何となく眺めていたのですが、その中に１つだけ異様に大きい木の実を見つけました。半分土に埋もれたアーモンド型のそれを掘り起こすと、その表面に「SATOSHI　YABE」という文字が刻まれていました。何とそれは、私が小学２～３年生頃、当時通学路として歩いていたその道でランドセルから落ちてしまったキーホルダーでした。無くした時、泣きながら必死で学校までの通学路を何度も捜し歩いた記憶が鮮明によみがえってきました。奇跡的な発見にびっくりしたのと同時に、この場所が５０年近く何も変わっていないという証が嬉しくて、住めば本当に「陸の孤島」で、今時電車もバスも通っていない不便な土地ですが、ずっとこのままであってほしいなあという思いを強く感じました。余りにも浅はかな感情ですが、これも一つの郷土愛なのでしょうか。それから、私の住んでいる「出丸（でまる）」という地名も変な響きで嫌いでしたが、地域の歴史を紐解いてみると誇りに思える意味の深い名称であることが分かります。

川越は歴史的にも文化的にも魅力あふれる地方都市です。この街に誇りを持ち、将来住み続けたいと考える魅力を、ぜひ日々の生活や学校の学習、他の地域との比較の中で探してほしいと思います。また、文化の継承だけでなく、未来に向けていかに自分たちの手で発展させていくかも模索できると良いと感じます。

次の１００年後、川越はどのような街になっているのでしょう。